

構造制御された共有結合性有機構造体を用いた多孔性炭素のデザインと電極材料への展開

金, 佳怜

<https://doi.org/10.15017/4060139>

出版情報：九州大学, 2019, 博士（工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	金 佳怜
論文名	構造制御された共有結合性有機構造体を用いた 多孔性炭素のデザインと電極材料への展開
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 藤ヶ谷 剛彦 副 査 九州大学 教授 三浦 佳子 副 査 九州大学 教授 畷越 恒

論文審査の結果の要旨

本研究では、共有結合性有機構造体（COF）の炭化が新規な多孔性炭素の合成法になることを提案している。またその過程で起きる炭化プロセスの理解が、多孔性炭素の構造制御や高機能化に重要であることを示している。本研究で得られた成果は、新規多孔性炭素材料やエネルギーデバイスの飛躍的な性能向上に貢献する。これらの成果は、化学システム工学上重要な知見を得たものとして価値ある業績と認められる。よって、本論文は博士（工学）の学位論文に値するものと認める。